

令和7年度第3回狹山市地域公共交通活性化協議会 会議録

開催日時 令和7年12月19日（金）午前10時00分～午前11時30分

開催場所 中央公民館 3階 第1ホール

出席者 吉田敦委員（会長）、久保田尚委員（副会長）、秦野委員、関根委員、霜村委員、中野委員、関口委員、吉田三男委員、下村委員、栗原委員、岡野委員、小島委員、高橋委員、苅谷委員、川村委員（代理：田村様）、山崎委員、平沼委員（代理：藤吉様）、島根委員、宮本委員、中寫委員（代理：小島様）、村井委員（代理：渡辺次長）、久保田大介委員（代理：武井次長）、昔農委員、深澤委員（25名）

欠席者 4名（藤田委員、岩澤委員、小寺委員、大石委員）

代理出席者 5名

事務局 土屋市民部次長、日出間交通防犯課公共交通担当課長、堀越主査、関野主事補

傍聴者数 10名

議題等

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議題

（1）市内循環バス茶の花号再編の経過報告について

（2）ほりかねデマンドバスの評価検証について

（3）狹山市地域公共交通計画の進捗管理について

（4）その他

4. 閉会

会議の経過、質疑等の内容

1. 会長あいさつ

2. 会議の成立及び会議の公開の確認

委員総数28名のところ、委員本人の出席が19名、代理出席5名、欠席が4名、過半数以上が出席していることから、会議が成立していることを確認するとともに、本日の会議の議題は、非公開とする理由がないことから、原則どおり公開することが決定された。

以下、吉田会長が議長となり、議事を進行した。

報告事項（１）市内循環バス茶の花号再編の経過報告について

<概要>

市内循環バス茶の花号の再編に向けた市民分科会での協議について、再編検討の状況について経過報告を行った。

<質疑>

委員 バス業界を取り巻く環境が厳しい状況の中で、狭山市を含めて12自治体でコミュニティバスを運行しており、各自治体に対して運行規模の見直しや再編を提案している。路線バスに充てられる労働力が厳しい状況にある中で、狭山市であれば、路線バス、茶の花号、ほりかねデマンドバスなど、色々な公共交通を重複することなく棲み分けすることが大きなポイントになると思う。路線バスと茶の花号も重複している箇所が一部あり、全てを解消することは難しいと思うが、少しでも棲み分けをして可能な限り少ない労働力で多面的に輸送していく形が望ましいと考えている。

会長 運行事業者として、労働力が厳しい状況にある中でより効率的な運行を検討してほしいという意見だと思う。今回は再編検討の経過報告であるが、最終的な答えを出すタイミングはいつを予定しているのか。

事務局 地域公共交通計画において、令和7～8年度で再編内容を検討して、令和9年度から運行していくスケジュールとなっている。

報告事項（２）ほりかねデマンドバスの評価検証について

<概要>

令和4年10月から実証運行を開始したほりかねデマンドバスについて、3年間の利用実績を説明するとともに、令和7年10月以降の運行継続の決定、持続可能な公共交通とするための課題と今後の方向性等について説明を行った。

<質疑>

委員 P34の課題と今後の方向性について、運行管理上の課題として安全管理の徹

底と記載されているが、具体的に何か問題があったのか。

また、補助金の活用と記載があるが、具体的にどの程度の補助金が入ってくるのか。

事務局 安全管理の徹底については事故があったわけではない。利用が午前中に集中する傾向があり、特に車両1台体制の期間に運行に余裕がない時間帯があった。安全に運行するうえで、交通事業者から2台体制に戻してある程度の余裕を持たせた方が良いという意見もあり、2台体制に戻して安全管理の徹底を図っている。

補助金については、鉄道駅やバス停から1km以上離れている地域を運行すること、交通結節点である鉄道駅等と接続していることが主な補助要件となる地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金を活用予定で、ほりかねデマンドバスは要件を満たしている。補助金額は200万円前後となる見込みであり、ほりかねデマンドバスの運賃収入が200万円強であることから、運賃収入と補助金を合算することで目標である収支率20%を達成することができると見込んでいる。また、運行経費から補助金と運賃収入を除いた金額の8割が特別交付税として措置されるため、運行経費が3,000万円であれば、市の負担は500万円程度となる予定である。

委員 課題に記載されているデジタル予約支援の強化について、スマートフォンを活用していくということであれば、どのようにして強化していくのか。

事務局 ほりかねデマンドバスは、現在約15%がインターネット予約となっている。スマートフォンからの予約率を上げて、オペレーションセンターの電話予約の負担を減らして経費削減を図りたいと考えている。そのためのデジタル予約支援として、スマートフォンからの予約が難しい方向けの講座の開催等を実施している。また、現在の予約システムは導入して時間が経過していることから、より使いやすいシステムを導入することも検討していきたい。

委員 他市町村では、利用者の増加に伴い、予約が取りづらくなるという問題が起きていると聞いたことがあるが、現状はその課題はないのか。また、今後インターネット予約を進めていく中で、利用者が操作に慣れて予約しやすくなることで予約が集中し、希望通り予約が取れなくなる状況が出てくるのではないかと。

事務局 予約の混雑状況について、1台体制の時は利用が集中する午前中の予約が取りづらい状況が生じており、早めに予約をする利用者が増えていた。件数としては、1日平均約20件の予約のうち、希望の時間帯に予約ができないことによるキャンセルは1日1件あるかないかであった。また、予約が取れない利用者について、例えば希望時間から30分ずれるので予約しないといったケースが見られるが、

デマンドバスの性質上、30分程度のずれは許容してほしいと考えている。今後、利用者を増やしていくため、車両台数や運行時間帯なども含めて検討していきたい。

委員 実証運行3年間を踏まえて運行継続となった。交通不便地域ということもあり、地域の方が大変喜んでいる。予約状況については、1台体制に変更した時は予約が混雑したこともあった。時間を変更して予約してくれる利用者もいたが、今後の課題として対応を検討したい。自治会に加入していない高齢者も多くいることから、民生委員等とも連携して、引き続き、デマンドバスの周知と利用促進に取り組んでいきたい。

報告事項（３）狹山市地域公共交通計画の進捗管理について

<概要>

地域公共交通計画に位置づけた13の施策ごとに、今年度の実施状況、評価、次年度に向けた課題や取組などについて説明を行った。

<質疑>

委員 施策②でモビリティマネジメントを実施とあるが、具体的にはどのような内容を実施したのか。

事務局 運転手不足などの現状や、乗って支える意識の醸成など既存の公共交通をどう守っていくのかということについて周知して、理解促進を図った。

委員 バスがあると助かるとの話を地域から聞くことがある。そうした周知をすることが公共交通の維持確保の第一歩だと思うので、自治会の回覧等も活用してほしい。

委員 施策④の公共交通に関する協働事業について、福祉有償運送に係る3名のボランティアが登録とあるが、こうした方のボランティア輸送はどういった車両で運行しているのか。

事務局 基本的にはボランティア自身の車両で運行しており、車いすを利用している方を移送する場合のみ、社会福祉協議会の車両を活用している。

委員 施策④で公共交通の利用促進につながるタイアップ事業を実施するとあるが、具体的にどういったことを実施していくのか。

事務局 サロンといった高齢者向け事業などの場に移動する際に公共交通を利用しても

らうことや、公共交通を日常生活の移動手段として考えてもらうことなどを検討している。また、そうしたイベントをデマンドバスが比較的予約しやすい午後の開催にしてもらうことでデマンドバスを利用してもらうことや、必要に応じてイベントにおいてモビリティマネジメントについて説明することなども考えている。

委員 施策⑨の福祉団体等が運行する交通サービスとは、NPO法人が運行しているものを指しているのか。

事務局 主にそういったものを想定している。第一層協議体に参加して、高齢者の移動手段の確保について協議している。

委員 福祉有償運送を実施しているNPO法人は担い手側も高齢化して存続の危機にあるという話も聞いている。そういった面での人材育成も必要となると思う。

事務局 運転手の確保も必要となると思うので、福祉有償運送講習会などを通じてボランティアを増やしていきたい。

委員 社会福祉協議会などとタイアップして取り組んでほしい。

事務局 基本的には社会福祉協議会等の福祉分野での対応となると思うが、協力できる部分は協力して、検討していければと考えている。

委員 施策②のモビリティマネジメントについて、今後に向けたターゲット層をどのように考えているのか。例えば子どもをターゲットとした計画はあるのか。

事務局 現在、公共交通を利用しているのは高齢者が多いが、長く利用してもらうためには幼少期から公共交通に触れてもらうことが重要だと考えている。そのため、小学生を含めたバスの乗り方教室について、事業者と連携して検討していきたい。

委員 施策⑧のデジタル技術の活用について、高齢者の利用に向けてICT支援強化とあるが、高齢者はデジタルに苦手意識があると思う。高齢者とデジタルの関係をどう考えているのか。また、ICTとはどのような意味なのか。

事務局 ICTとは情報通信技術のことで、労働力が減少していく中でスマートフォンやインターネットなどの活用が重要となることから記載した。例えば堀兼地区のデマンドバスでもインターネット予約を活用しているが、高齢者が利用することが難しいという問題があるので、そうしたサービスを高齢者が利用できるようにサポートしていく施策となっている。

委員 概念的なので、もう少し具体的な施策として提示してもらえるとよりわかりやすくなると思う。

委員 施策④の公共交通に関する協働事業について、講習会などの存在を知らない人が多いと思う。社会福祉協議会の分野かもしれないが、市も協働して周知を図った方がいいと思う。自治会を通じて周知していくことで協力者も増えると思う。

副会長 松伏町の職員が狭山市の病院の送迎バスを活用した外出支援の取組を視察したと聞いた。松伏町でも同様の事業の実施を検討しているそうだが、この事業は進捗管理に位置づけられていないのか。

事務局 高齢者外出支援事業として実施しているが、公共交通を補完する補助的なものと考えているため、交通計画において目標設定はしていない。

副会長 国としても輸送資源の総動員ということを打ち出している中で、先進的な取組なので示しても良いのではないかな。

事務局 地域公共交通計画自体には掲載しており、ホームページ等で周知はしているが、進捗管理の目標設定とは別と考えている。

委員 施策②の公共交通を利用してもらうための取り組みとして、東急台自治会でのモビリティマネジメントの参加者が200人となっている。最寄り駅まで30分くらいかかる場所であるが、利用者が増えたなどこの取り組みによる効果は把握しているか。

事務局 高齢者外出支援事業の利用登録会を実施し、併せて市内公共交通の現状や課題、公共交通の必要性を説明した。多くの方に高齢者外出支援事業に登録いただき、また、公共交通に係る意見等も多くいただいたことから効果があったものと認識している。

報告事項（４）その他について

○西武バス株式会社からの報告

<概要>

担い手不足の問題など、バス業界を取り巻く環境が大変厳しい状況となっている中で、市内を運行している路線バス系統「新狭11」「狭山25」「狭山26」について令和8年3月31日の運行をもって廃止となる旨をご報告いただいた。

<質疑>

なし

～ 副会長挨拶により閉会 ～

配布資料等一覧

☐ 次第

☐ 座席表

☐ 狭山市地域公共交通活性化協議会委員名簿

☐ 資料 1 市内循環バス茶の花号再編の経過報告について

☐ 資料 2 ほりかねデマンドバス実証運行3年経過を踏まえた評価検証について

☐ 資料 3 狭山市地域公共交通計画の進捗管理について